

ANNUAL REPORT 2022

Junior Chamber
International Osaka

あたたかな未来をつくろう！

ANNUAL
REPORT 2022
Junior Chamber International Osaka



<https://www.osaka-jc.or.jp>

🔍 JCI 大阪 GO



一般社団法人 大阪青年会議所

あたたかな
未来をつくろう！





人を想い、街を想う、
「結の心」を繋ぎ続ける。



CONTENTS

大阪青年会議所とは	6
大阪青年会議所の歴史	7
理事長所信	8

2022年度 大阪青年会議所活動ハイライト

01 地域をあたたく照らそう!	10
子 ど も の た め に	
バズるFUKUSHIMA	12
バズるFUKUSHIMA「キッズ・IN・ターン」	13
バズるFUKUSHIMA「わんぱく相撲大阪市大会」	14
大阪よさこいフェスティバル	15
24区活性化事業 子ども食堂	16
社会人講師事業	17
02 輝く個性で世界の共感を生み出そう!	18
世 界 の た め に	
TOYP ～The Outstanding Young Persons～	20
GYAO ～Global Young Academy Osaka～	21
エコシステムプラットフォーム大阪	22
FUN FUN Cooking	23
03 都市への想いを結びつけよう!	24
都 市 の た め に	
モテラシー-OSAKA「フィールドワーク」	26
モテラシー-OSAKA「公開討論会」	27
モテラシー-OSAKA「Final Presentation」	28
コラボウサイ	29
第34回なにわ淀川花火大会	30
献血にいったんでプロジェクト大阪2022	31
2022年度 活動協力企業及び連携先企業	32
04 強かな組織へと進化しよう!	34
組 織 の た め に	
月例会	36
会員交流事業「大阪JC大運動会」	38
新年名刺交換会	39
OB現役報告会	40
会員大会	41
賛助企業・パートナー企業	42
広報	43
大阪青年会議所 2022年の歩み	44
2022年度 組織図	46

大阪青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定にともない青年会議所と改名)設立から、日本青年会議所(JC)運動は始まりました。

共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要メンバーとして関わっていきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条(トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」フレンドシップ「世界を結ぶ友情」)のもと、よりよい社会づくりをめざしボランティアや行政改革などの社会課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

大阪青年会議所の特性

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意思によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。(但し入会資格は満25歳から37歳まで)これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなければなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。

青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国会議員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

団体概要

団 体 名	一般社団法人 大阪青年会議所
創 立 年 月 日	1950(昭和25)年3月25日
社団法人格取得年月日	1955(昭和30)年1月17日
一般社団法人移行年月日	2014(平成26)年1月6日
事 務 局 所 在 地	〒552-0007大阪市港区弁天1-2-30オーク4番街401号室
連 絡 先	TEL:06-6575-5161 FAX:06-6575-5163
正 会 員 数	644名(2023年1月1日現在)
O B 会 員 数	2,840名(2023年1月1日現在)
事 業 年 度	1月1日～12月31日
U R L	https://www.osaka-jc.or.jp

大阪青年会議所の歴史

1950年	大阪青年会議所創立
1951年	日本青年会議所創立
1957年	「整肢学院児童招待ドライブ」を開始
1962年	「JCIアジアコンファレンス」を大阪にて開催
1970年	万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
1974～83年	「淀川マラソン」を実施
1974年	淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催
1980年	「JCI世界会議大阪大会」を開催
1980～89年	「国際シンポジウム」を開催
1980年～	「キッズ スワップ (交換ホームステイ)」を開始
1981年	「TOYP(The Outstanding Young Person)大阪会議」を開催
1982年	「わんぱく相撲」を実施
1985年～	天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
1986年	「Save The Children Japan (SCJ)」設立(大阪JCが中心となって設立)
1995年	阪神・淡路大震災における組織的支援活動／国連広報局よりNGOとして承認
1996年	「大阪NPOセンター」設立(大阪JCが中心となって設立) 「大阪モデル国連会議(OMUN)」開催
1998年	「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催
2000年	大阪JC創立50周年記念植樹／「大阪JC実りの森」を実施
2001年	「日本JC第50回全国会員大会大阪大会」開催
2008年	インド・ニューデリーにて、「2010年度JCI世界会議」が大阪に決定
2010年	「大阪JC創立60周年記念式典・祝賀会」開催 「第65回JCI世界会議」を大阪にて実施
2012年	「第67回JCI世界会議台北大会」でプノンペンJCとシスターJC締結
2014年	一般社団法人へ法人格を移行
2015年	「大阪JC創立65周年記念式典」開催
2016年	18歳選挙権解禁に伴うULTRA VOTE PROJECTの開催
2017年	マチミラOSAKA2017の開催
2018年	大阪市への公開提言の実施／万国博覧会の開催決定
2019年	SDGs MIRAIKAIGIの開催／SDGs甲子園×TOYPの開催
2020年	「大阪JC 創立70周年記念式典」開催／粋の祈りプロジェクトの実施
2021年	「献血にいったんでプロジェクト大阪2021」開催／「大阪未来博」を開催
2022年	「バズるFUKUSHIMA」開催／「モトテラシーOSAKA」の実施



整肢学院児童招待ドライブ



淀川マラソン



わんぱく相撲



阪神・淡路大震災支援活動



第65回 JCI世界会議 大阪大会



大阪JC創立65周年記念式典



マチミラOSAKA2017

世界に誇る強靱都市 大阪の実現

～「結の心」であたたかな未来をつくろう～



一般社団法人 大阪青年会議所
第72代理事長 梶本 秀則

いつも誰かが手を差し伸べてくれていた。
それでも一歩踏み出せば
すべてが変わった。

授かるやさしさ感謝に変えた、しなやかな思いやり
煌々と輝く個性が、周囲を照らす光となって
誠実に行動し続ければ、必ず人びとの意識と行動を変えられる。

この「結の心」を拡げ、あたたかな未来をつくっていききたい。

はじめに

2019年に端を発し、世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、世界経済に大きな打撃を与え、長期にわたって不安や困窮が拡大し続け、社会システムや人の弱さを露呈させることとなりました。一方で、デジタルインフラの活用が浸透し、世界との繋がり方やライフスタイルに至るまで、これまで当たり前だった私たちの暮らしに大きな変化をもたらしました。人類はこれを機に、まだ見ぬ困難に立ち向かうために、未来を見据えどう歩みを進めるべきなのかを考え、行動していかなければなりません。

近年では、相対してのコミュニケーションを図る場面が著しく減少することで、人と人との繋がりが希薄化し、共助の精神が失われつつあります。しかし、以前は家族間だけではなく、地域の人たちがあたたかなコミュニケーションを取りながら共に暮らし、安心安全に子どもを育める環境を築いてきました。また、私たちの記憶にも新しい大阪府北部地震においては、大半のライフラインや交通網を翌日には復旧することができました。有事の際にも、一人ひとりが自分以外の誰かのために想いを結束し、一刻も早く日常を取り戻すために行動したことで、早期に都市を回復することに成功し、より発展させることができたのです。これからの私たちは、都市の発展だけを考えて行動するのではなく、世界へ新たな価値観やライフスタイルを生み出す大阪・関西万博の開催や、その先の未来を見据え、持続可能な社会の在り方に関心をもつことも大切です。また、独自の文化や魅力を新たな取組みによって世界に発信できれば、かつての高度経済成長のように、大阪はより発展することができるでしょう。

社会不安に起因する、あらゆる層に蔓延しつつある利己的な思考から脱却し、期待される都市の一員として、どんな状況でも社会における役割を全うする人的インフラを取り戻さなければなりません。今こそ、授かるやさしさから生まれるしなやかな思いやりと、相手の個性を煌々と輝かせる強さを持ち、誠実に行動し続ける「結の

心」を灯すことができれば、人びとは自然と結びつき、民の力が発揮され、誰もが当たり前の日常を過ごすことができるあたたかな未来への礎となる、世界に誇る強靱都市大阪が実現されるのです。

思いやり溢れる強靱な地域を取り戻そう！

新型コロナウイルス感染症の拡大や、経済環境の悪化によって子どもは、学校や地域で仲間と接する機会が減少し、他者への思いやりが薄れつつあります。一方で、様々な情報を得られる環境が整ってきたことで、これまでより多く学ぶ機会が得られ、夢や将来就きたい職業を想い描くことができるはず。自由に自身の希望を想い描くためには、これまで以上に地域の大人が繋がり合い、あたたかなコミュニケーションから互いの思いやりを育み、大人が子どもを見守りながら、未知への関心や好奇心を高める環境を構築していかなければなりません。

また、これから子どもが迎える未来は、大人でさえも見通すことが難しい時代になることは間違いありません。ライフスタイルの変化や予見される自然災害など、自らが状況判断を繰り返し、多くの成功と失敗を経験しながら未来を切り拓いていかなければなりません。子どもが力強くこれから生き抜いていくためには、体験によって様々な価値観や考え方に触れ、困難な状況を自ら乗り越え、仲間とともに問題を解決する力が必要です。成功や失敗を受け止め、肯定的に捉える積み重ねから自己肯定感が芽生え、希望をもって未来へ突き進む子どもを地域全体で支える環境こそ、これから求められる強靱な地域インフラのあり方なのです。

私たちは、地域をあたたかく照らし続ける強固な連携を築き、夢や希望に向かって仲間と協働する力強い行動力を養い、地域を愛する人びとが共生する、世界に誇る強靱都市大阪を実現します。

輝く個性で新しい価値を生み出そう！

これまでの画一的な教育は改善されつつあるものの、自らが考え、チャレンジしようとする若者が、世界と比較しても少ないのが現状です。さらに、世界で活躍する意欲をもたせる環境も多くはなく、このままでは厳しい競争の中で生き残ることができず、大阪は一気に衰退してしまいます。今後も社会が目まぐるしく変化していくことが予見される中、未来を創っていくべき若者が、柔軟な発想と個性を活かし、挑戦する意欲をもつことが必要です。多くの企業家を輩出してきた文化に根付く大阪の精神性と、新たなライフスタイルによって輝きを増す個性が調和する世界に先駆けたモデル都市として、挑戦する環境を構築し、若者が新しい価値を生み出し続けな

ければなりません。

また、世界の国々は目の前の課題に精一杯になり、グローバリゼーションへの意識と行動が弱まってきています。一方で、エコシステムに代表されるように、収益を上げながらも社会課題を解決するビジネスが、世界中で次々と生み出されてきており、ビジネスを通して企業が共通の課題を解決するために実践し、継続していくことが必要不可欠な社会になることは間違いありません。在阪企業や研究機関、行政等の連携を活用することができれば、これまでに無い価値観や新たな技術で、持続的に都市を発展させていくことができるのです。

私たちは、都市の資産を土台に活躍する姿を想像し、柔軟な発想と連携から価値を生み出す意欲と行動力を携え、個性輝く人材が共感を生み出す、世界に誇る強靱都市大阪を実現します。

民の力で未来を描こう！

私たちは数々の自然災害を経験し、近い将来大きな地震も予見されています。これまでの経験の積み重ねから、情報ツール等の利便性は向上していますが、防災への意識や関心はどうしても時間が経つにつれ低下してしまいます。災害への対応力向上は、都市機能や経済の早期回復に直結するため、起こる前の準備や意識は極めて重要です。一人ひとりが十分な対策を行うことに加え、ICT技術の活用と将来への危機意識を共有し、有事の際にはそれぞれが他人任せにすることなく、地域の中での役割を果たすことができる官民の繋がりで、あらゆる事態に備えておく必要があります。

また、大阪・関西万博にむけて準備は進んでいるものの、近年の社会情勢の影響もあり、市民や企業の関心は高まりを見せるに至っていません。加えて、これまでの大阪都構想の是非は、都市への関心を高めることになりましたが、官民が議論や連携する場は十分ではなく、市民の想いと都市の進むべき方向性を決める政治とが、真に意識統一できた状態にない現状では、矛盾が生じていることを誰もが理解をしなければいけません。大阪・関西万博を1つの契機と捉え、その後の未来に都市がどうあるべきか考えるきっかけにすれば、都市への関心を高めることに繋がります。立場を超えて能動的に自らの役割と責任を果たすことができれば都市は動くことを体感し、いかなる問題をも解決することができる強靱な都市モデルを確立できるのです。

私たちは、どんな環境でも自らに役割があることを理解し、官民が支え合う本来の都市の姿を取り戻し、立場を超えた共創で人びとの想いを結びつけ、世界に誇る強靱都市大阪を実現します。

強靱な組織へ

社会での立場に関係なく何事も受け止め、互いに知性と品格を磨き合える人づくりと、いかなる時代も都市に貢献し続けてきたまちづくりの両輪を回し続けたことで、蓄積された資産とネットワークをもつ私たちは、世界でも唯一無二の存在です。

青年会議所は、全国に広がる組織として明るい豊かな社会の実現にむけた運動を展開し、日本の社会や経済を支えてきました。近年では制限された環境となったため、そこに適応し学びを得ながら新しい挑戦を続けてきました。時代が急速に移り変わる中で、社会環境も変化し続けていることを誰もが受け止め、いかなる困難をもプラスに転換するためには、これまで以上に学びとやりがいを得られる組織へと進化させていかなければなりません。

そのために、同じ目標に向かうことで得られる経験や異なる背景をもつ仲間の価値観を認め合い、これまで組織を支えてきたインフラとも言える会員同士の繋がりを再構築することから始めていくことが必要です。また、私たちと同じくして都市のために活動する様々な外部協力者も、少なからず活動に制限を受ける中で、改めてそれぞれの強みを活かし、繋がりを強化することで、これまで以上に共感が生まれ、市民の自発的な行動に繋がるはず。さらに、最先端の技術や思考を学ぶだけでなく、活用して実践する環境を整えることに加え、必要なものを残しながらも時代に先駆けて進化し、考え抜くことを諦めず、挑戦し続けることができれば、会員の社業や、所属するコミュニティにおいてのロールモデルとなり、それぞれの資質を向上させることになります。私たち自身が先輩諸氏から受け継いだ創始の志を胸に秘め、これからの時代に求められるリーダーであり続けることで自然と同志が集い、どんな困難にも立ち向かい、都市を牽引する強靱な組織へと進化することができるのです。

目の前の人を、今立っているこの場所を、少しでもより良く変えるために。

一人ひとりが、
いつも隣にいてくれる人たちを思いやり、
自らの成長を願う以上に他者の幸福を願い、
偽ることなく純粋に当たり前のことを積み重ねよう。

大切な人に、家族に、仲間に、そして、全ての人びとにあたたかな未来が訪れるよう、
「結の心」を拡げ、世界に誇る強靱都市大阪を実現させよう。

地域をあたたかく 照らそう！

子どもたちを地域で支える活動

福島区、淀川区の人びとと共に、地域の子どもをあたたかく見守り続ける強固な連携を築きました。伝統ある「わんぱく相撲大阪市大会」をはじめ、「大阪よさこいフェスティバル」の開催など、子どもたちの明るい未来のために、立場を超えたあたたかなコミュニケーションを取り戻し、思いやり溢れる地域を実現できるよう多団体と協働してきました。



バズるFUKUSHIMA



バズるFUKUSHIMA
「キッズ・IN・ターン」



バズるFUKUSHIMA
「わんぱく相撲大阪市大会」



大阪よさこいフェスティバル



24区活性化事業
子ども食堂



社会人講師事業



バズるFUKUSHIMA

地域の大人が、将来に不安を抱える子どもに対して自己肯定感を高めていくことができる仕組みを構築するため、「バズるFUKUSHIMA」は開催されました。地域の企業や大人が集結し、互いの経験や価値観を共有しながら議論を積み重ね、「わんぱく相撲大阪市大会」や「キッズ・IN・ターン」など企画立案し、実施しました。地域の課題を当事者としてとらえ、自らが行動する必要性に気づいた人びとが、子どもたちのために様々な活動を実施しました。



バズるFUKUSHIMA 「キッズ・IN・ターン」

「キッズ・IN・ターン」は、福島区に住む子どもたちに職業体験を通して社会経験をしてもらおうと開催された事業です。JCI大阪と、福島区で働く大人たちで構成された「バズるFUKUSHIMA」のメンバーが中心となって運営されました。81名の子どもたちと、41もの多種多様な企業や団体が参加し、様々な職業を体験することで人や地域の繋がりを実感できました。





バズるFUKUSHIMA 「わんぱく相撲大阪市大会」

2年ぶりの開催となった「わんぱく相撲大阪市大会」。2022年度は、大阪市福島区の玉川小学校で行われました。JCI大阪メンバーだけの設営ではなく、福島区の企業や商店街の方々に構成された「バズるFUKUSHIMA」メンバーと共に運営しました。事業当日は果敢に挑戦する子どもたちを地域の大人たちが見守り、あたたかな想いに包まれた大会となりました。



大阪よさこいフェスティバル

地域内での人と人との繋がりが薄れつつある現在、立場を超えた繋がりの重要性を感じ、よさこい踊りを通じてあたたかな地域を取り戻そうと中之島公園で開催されました。当日は天候にも恵まれ、淀川区と福島区の40人の子どもたちが約3ヶ月間練習を重ねた成果であるよさこい踊りが披露されました。また、様々なよさこいチームの演舞やキッチンカーの登場、緑日の催しなどもあり、会場は大変盛り上がりしました。





24区活性化事業 子ども食堂

地域の人たちとの関わりから、子どもたちに多くの学びや経験を得てもらうべく、大阪市内6会場にて子ども食堂の運営サポートを行いました。食事の提供や、まちの清掃活動、レクリエーションなどを通じて、多くのボランティアや物品協賛・寄付といった地域の繋がりにより子どもたちの笑顔が溢れる一日となりました。



社会人講師事業

子どもたちのキャリア教育の一環として、大阪市内の小学校で12コマの出前授業を実施しました。普段学校では学べない、世の中を支える様々な仕事の紹介や、働きがいについてのグループワークを行いました。将来の夢をふくらませる子どもたちの眼はキラキラと輝き、想いを伝えることの大切さに気づく事業となりました。

輝く個性で
世界の共感を
生み出そう！

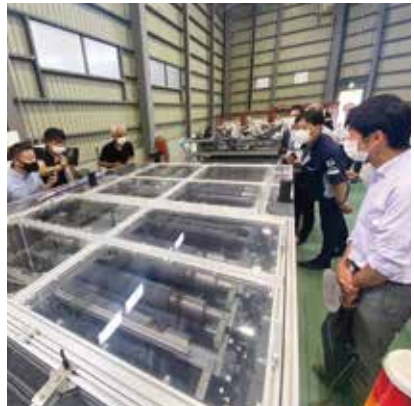
世界に共感をもたらす人財を生み出す活動
世界に先駆けて社会課題の解決モデルを生み出す環境の構築を目指し活動してまいりました。
世界で活躍する起業家を育成する仕組みである「GYAO」をはじめ、世界中から傑出した若者を招き、その最先端の活動に触れるとともに互いの友情を深め、将来のグローバルリーダーたちのネットワークを長年にわたり築いてきた「TOYP」は、大阪青年会議所が誇る事業となっています。



TOYP
~The Outstanding Young Persons~



GYAO
~Global Young Academy Osaka~



エコシステムプラットフォーム大阪



FUN FUN Cooking



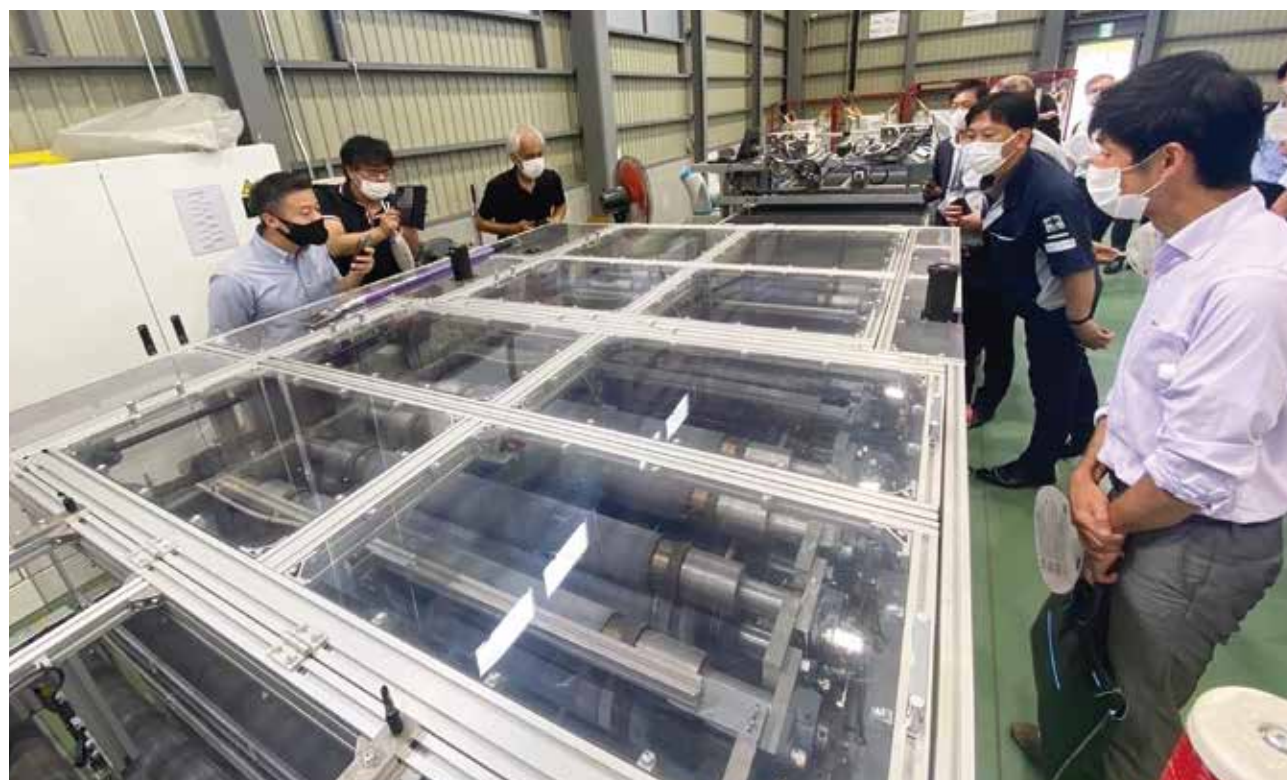
TOYP ~The Outstanding Young Persons~

TOYPは、海外の様々な分野で前途ある傑出した若者たちを招き、青年としての民間外交や国際交流を行い、互いに学び合い意識を高め合うことを目的とした、1981年から継続している事業です。2022年度は世界各国から5名の若者が参加し、ホームステイ等を通して日本の文化に触れていただきました。



GYAO ~Global Young Academy Osaka~

世界をステージに挑戦するグローバルリーダーを創出することを目的とした事業です。起業家が大学生の考えた起業アイデアの実現に向けて支援を行い、Youtube「令和の虎」の出演をかねて、学生が起業家と共に練りに練ったビジネスプランをプレゼンテーションしました。そして、事業に参画いただいた起業家を中心として、挑戦する若者の起業を実現に導くコミュニティを立ち上げました。



エコシステム プラットフォーム大阪

世界共通の課題の解決に向けて、産官学連携で持続可能なビジネス『エコシステム』を創り、大阪から発信する事業です。将来、大きな問題となる「太陽光パネルの廃棄問題」について、企業、大学、行政の方々と連携し、廃棄に関する枠組みとして、「大阪モデル」を考案しました。そして、持続的に世界の諸問題について考える、産官学連携のSDGs達成に向けたチームを設立いたしました。



FUN FUN Cooking

FUN FUN CookingはJCI大阪と姉妹関係にある世界各国の青年会議所をリモートでつなぎ、交流を楽しみながら各国の料理を互いに調理する企画です。食を通じて世界を身近に感じ、国は違えど想いを同じくして仲間と交流をはかる事で、コロナ禍の影響により希薄化していた世界各国との繋がりも再構築することができました。

都市への想いを 結びつけよう！

産官学民の立場を超えて大阪の 未来を共創する活動

大学や企業、行政などと連携し、大阪の発展に向けたビジョンを創る「モテラシーOSAKA」をはじめ、3年ぶりに開催された「なにわ淀川花火大会」の運営協力など、一人でも多くの人びとが、都市の一員として能動的に関わっていける仕組みづくりを行ってきました。



モテラシーOSAKA
「フィールドワーク」



モテラシーOSAKA
「公開討論会」



モテラシーOSAKA
「Final Presentation」



コラボウサイ



第34回なにわ淀川花火大会



献血にいったんでプロジェクト大阪2022



モテラシーOSAKA 「フィールドワーク」

若者に都市の発展に関わる主権者意識を育んでもらうため、大阪のまちの「灯台下暗し」な魅力を発掘し、それを「照らす」ことで共感を広げていくモテラシーOSAKAがスタート。梅花女子大学と連携し、学生たちを対象に、大阪観光局の溝畑理事長にご講演いただき、大阪を代表する数々の企業と共にまちの現状や社会課題について学びました。



モテラシーOSAKA 「公開討論会」

JCI大阪、大学、企業、行政とが連携し、まちの発展、活性化について考える事業です。梅花女子大学の学生と連携企業でグループワークを重ね、大阪の活性化に向けた様々なアイデアを策定。そして、衆議院選挙前に各政党の議員をお招きし、自分たちで考えたアイデアの中間発表を行い、意見交換や討論を行いました。





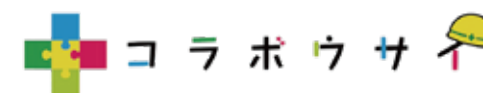
モトテラシーOSAKA 「Final Presentation」

梅花女子大学の学生が、約5カ月間に渡って連携企業とともに大阪の発展に向けた観光政策を創り上げた「モトテラシーOSAKA」の集大成プログラムとして、多くの人びとや有識者の前でプレゼンテーションを行いました。また、今後も継続して大阪の発展に尽力していくために、JCI大阪と梅花女子大学、大阪観光局との間で連携協定が締結されました。



コラボウサイ

コラボウサイは、自然災害などの有事に備え、都市の企業同士や地域の人びとが連携を行う仕組みを創り出すプログラムです。東住吉区の企業経営者を対象に、フィールドワークや講師講演、グループワークを通じて、防災・減災を踏まえて事業継続を可能にするための取組を記載した「事業継続力強化計画」を作成しました。また、9月には長居公園にて、防災イベントを大々的に開催し、地域の人びとが企画・立案した防災に関するイベントブースを出展しました。





第34回なにわ淀川花火大会

新型コロナウイルスの影響で、3年ぶりの開催となった「なにわ淀川花火大会」。JCI大阪が運営協力として、会場誘導や救護対策、翌日の清掃活動などを行いました。地域の人びとの協働によって打ち上げられた壮大な花火が、大阪のまちに元気をくれたと共に、地域の繋がりや絆の大切さを知る機会となりました。



献血にいったんで プロジェクト大阪2022

日本赤十字社と連携し、市民の方々の献血を促進。新型コロナウイルスの影響で献血者数が減っている現状を踏まえ、今年で3回目の開催となりました。難波、天王寺、上新庄、梅田、京橋、大正の6会場で行われ、全会場合わせて500人を超える皆さんから献血にご協力いただきました。



2022年度 活動協力企業 及び 連携先企業

法人名
NPO法人どこでも夏休み

キッズ・IN・ターン

理事長 玄行 淳嗣

バズるFUKUSHIMAに参加して、地域で子どもを育む必要性を強く感じました。

私が運営しております「NPO法人どこでも夏休み」では子どもに対して、地方へのホームステイの体験を通じ、自然とのふれあいや老若男女の方々とつながりを提供する事業を行っています。子どものもつ豊かな感受性や可能性を最大限に活かし、社会に役立てる人材の育成に寄与することを目的としております。

この度のご縁から、JCI大阪が創り上げた「キッズ・IN・ターン」を引き継がせていただきました。この事業を地域に根付かせ、さらに多くの子どもたちに素晴らしい機会を与えてまいります。多くの地域の人を巻き込み、地域から大きなムーブメントを巻き起こしていきたいと考えております。子どもの未来を拓く、誰もがパートナーとして連携・協働する地域を目指し頑張ります。



法人名
近畿電電輸送株式会社

エコシステム
プラットフォーム
大阪

課長 蔦井 剛

使用済太陽光パネルのリサイクルは、未来のために今から大阪全体でみんなで取り組むべき課題です。

今回大阪青年会議所が開催していただきましたエコシステムプラットフォーム大阪に当社も全力で取り組ませていただきました。当社では、今後絶対に起こる太陽光パネルの大量廃棄問題に対応するため、太陽光パネルの運送、リユース、リサイクルに至るすべての工程を行っており、アンチモンなどの有害物質を無害化することで、太陽光パネル廃棄による環境破壊の防止に取り組んでおります。



エコシステムプラットフォーム大阪によって、大阪市などの行政、立命館大学、リサイクルや運送、シャープなどの太陽光パネルのメーカー、ガラス業者などの企業が太陽光パネルリサイクルという一つの目標に向かって、皆で話し合い、社会課題解決のために知恵を出し合ったことは非常に有意義だったと感じています。今後ともこの課題で集まった皆さんと協力し合いながらこの問題に取り組む継続したいと思います。

法人名
じよいなす☆なっぴー

コラボウサイ

世話役 神末 吉庸

地域で元気な企業・団体と「つながれる」楽しさと頼もしさを実感して！
～地域防災での「共助」の多層化を目指す～

当会は、東住吉区を誇れるまちにすべく、地域の人びとで構成する集まりです。月に一度の定例会の開催や、地域のイベントの支援として広報活動を行っています。昨春コラボウサイを知り、参加を要望。ワークショップを通じ、災害の実態や、事業継承に向けた対策・連携の大切さを実感しました。「東住吉」を冠し、活躍される企業の皆さまとのパイプ作りができたこと、いざという際には有力な味方が身近にいることを認識し、地域の団結力が心が高揚しました。



また、災害への危機感を啓蒙できたこと、企業・介護施設・神社仏閣・学校等様々な団体との共助、民間視点での協力連携アイデアや機動力は大きな収穫です。防災クイズに取り組む親子の姿を見て、東住吉住民の防災感覚を着実に高めた事業であったと感じました。「安全」が何よりの地域バリューと考える当会だからこそ、この活動の定着と推進の大切さがよく理解できました。

法人名
株式会社浜田

エコシステム
プラットフォーム
大阪

上田 俊秀

太陽光パネルのリユース・リサイクルの今後の課題につき、産官学が連携できた重要な事業でした。

持続可能なビジネス『エコシステム』について考える事業として、当社も参加させていただきました。太陽光パネルの寿命は25年ほど。2030年から増大し2040年には2018年廃棄量の約200倍になるといわれています。また、災害や高効率パネルへのリプレイス、メンテナンス時の不具合パネルの発生などにより、すでに太陽光パネルの廃棄は大量に発生しております。



当社でも、東京・京都において太陽光パネルリユースリサイクル事業に取り組んでおります。今後の大量廃棄問題には全てのステークホルダーが協力して取り組むべきだと考えており、大阪府内を中心とした企業、立命館大学の峯元教授、また大阪府などの行政機関などが、一同に介して一つの課題に向き合い、検討できたことは、大きなきっかけになったと考えております。本事業の出会いをきっかけに、持続的に環境問題を解決できるスキーム構築ができればと思っています。

法人名
株式会社プラチナファーマ

GYAO
~Global Young Academy Osaka~

代表取締役 五條 祐基

実業家は学生の皆さんにどういったバトンをつなぐのか？起業プランを元に学生さんたちとの素晴らしい交流をさせていただきました。

この度起業家として参加させていただきました。『遺伝子検査事業』『健康食品、化粧品品の企画製造販売』をしております。私も大学在学中に起業し、当時はこのようなプログラムもなく大変恵まれているなど感じる反面、現代は『拙速な変化』『情報インフレ』『コロナ禍』などにより、厳しい環境であると認識しました。目標は起業プランを作成する事でしたが、必ずしも起業がゴールではない、何を達成することで幸せを感じるか？重要な進路の岐路ですので、プランの困難さ以上に責任の重さを感じた事を覚えています。



困難さと責任を感じる中、学生の方々とディスカッションをさせていただき、私も創業当初の熱い気持ちを再認識させていただき素晴らしい機会でした。今後の事業には社会性が大切であると考えております。本企画を継続していただき、今後の社会がより豊かによりなる素晴らしい人間を輩出していける仕組みとなっていれば幸いです。

法人名
株式会社ロゴスコーポレーション

モテラシー
OSAKA

取締役副社長執行役員 柴田 晋吾

企業と学生による、互いの相乗効果を生み出すコラボレーション。魅力を引き出す切り口は様々。

弊社はアウトドアメーカーとして屋外と人を繋ぐ第一ブランドを目指しており、用品・アパレルの開発をはじめ全国に直営店やテーマパーク、キャンプ場、YouTubeチャンネル、TikTokの開設など、アウトドアをもっと身近に感じてもらえる取り組みを行っています。

今回、梅花女子大学の学生から、女性にもっとキャンプを楽しんでもらうためのアイデアとして、気軽にアフタヌーンティーが出来ることを普及すること、キャンプ場にレディースデイを設けるという意見が出ました。弊社社員と共に議論を重ね、女子大生ならではの目線でアウトプットを導き出してもらったことは非常に良い機会となり、魅力を引き出す切り口はまだまだあるということを知りました。YouTubeコンテンツとしても昇華でき今後の弊社の取組に活かし、共に大阪、日本を盛り上げる活動を、今後も継続できれば幸いです。



法人名
公益財団法人 大阪観光局

モテラシー
OSAKA

理事長 溝畑 宏

若い力の結集こそが、まちを元気にする。
2025年の大阪・関西万博を一つの契機に、共に大阪から日本を元気に！

コロナ禍で観光都市としての課題が浮き彫りになり、2025年の大阪・関西万博がいよいよ近づいてきたタイミングで、より大阪を盛り上げるための観光政策を考えてもらいました。梅花女子大学の学生の皆さんと、協力企業の連携で相乗効果を生み出し、一人一人が意識することで周囲へと伝播していく、若い力でまちを動かすJCI大阪の素晴らしい取組みは大阪観光局としても今後も関



われることが多々あると感じました。これから大阪はもっと元になります。そして大阪だけではなく、日本全体を元気に！世界最高水準、アジアNo.1の国際観光文化都市へと導くために今後も共に活動し、世界が憧れる「住んで良し、働いて良し、学んで良し、訪れて良し」の元気な大阪を創りあげていきましょう。ありがとうございました。

法人名
千房ホールディングス株式会社

モテラシー
OSAKA

代表取締役社長 中井 貴二

若い、「人」の力こそが大阪の成長にも繋がる。
これからも学生がより良い活動をするための橋渡し役として期待。

今回、梅花女子大学の学生さんから提案してもらった、ペットツーリズムを切り口としたアイデアは社内でも検討していたことがあり、それを後押ししてもらい形になりました。新型コロナウイルスの影響で厳しい状況にある飲食業において、観光都市としての現状と向き合いながらどう乗り越えるべきか、当社社員が共に考えさせてもらう良い機会となりました。当社は他にも大学との連携



を取っており、学生の活動を応援しています。Z世代と呼ばれる彼らが、この変化の時代にどう立ち向かっていくのか、若い、「人」の力こそが大阪の成長にも繋がっていると思いますし、我々も是非協力していきたいと考えています。JCI大阪がこれからも企業と学生がより良い活動をするための橋渡し役となって大阪を盛り上げてもらえたらありがたいと思っています。

強靱な組織へと 進化しよう！



月例会



会員交流事業
「大阪JCI大運動会」



新年名刺交換会



OB現役報告会



会員大会

会員同士の繋がりから共感を生み出す活動
大阪青年会議所の方針を全メンバーに共有する場である「月例会」をはじめ、OB諸兄やご家族とのあたたかな交流を促進してきました。1年間の集大成としての「会員大会」では事業の成果や会員の活躍を称え合いました。私たちは、どんな困難にも立ち向かい、都市を牽引する、これからの時代に求められるリーダーであり続けます。



月例会

月に1度の月例会では、大阪青年会議所の全メンバーが集まり、理事長より活動報告やビジョンの共有がなされます。

また、外部から講師を招いてリーダーとしての資質を磨き、大阪のまちに貢献する活動を推進しています。

2022.
01.15
Sat. | 19:00

1月度 月例会
不死王閣

ゲスト

ヤフー株式会社Yahoo!
アカデミア本部長 伊藤 羊一 氏



2022.
03.18
Fri. | 19:00

3月度 月例会
大阪市中央公会堂 大集会場

ゲスト

NPO法人
全国こども食堂支援センター・むすびえ
理事長 湯浅 誠 氏



2022.
04.25
Mon. | 19:00

4月度 月例会
大阪市中央公会堂 大集会場

ゲスト

株式会社Voicy
代表取締役 緒方 憲太郎 氏



2022.
05.31
Tue. | 19:00

5月北地域8LOM合同例会
大阪市中央公会堂 大集会場

ゲスト

IT企業役員 / お笑い芸人
厚切りジェイソン 氏



2022.
06.20
Mon. | 19:00

6月度 月例会
大阪市中央公会堂 大集会場

ゲスト

エクスコムグローバル株式会社
代表取締役社長 西村 誠司 氏



2022.
07.21
Thu. | 19:00

7月度 月例会
大阪市中央公会堂 大集会場

ゲスト

NPO法人ドットジェイピー
理事長 佐藤 大吾 氏



2022.
10.17
Mon. | 19:00

10月度 月例会
帝国ホテル大阪 孔雀の間

ゲスト

株式会社Nettend
代表取締役 野村 忠宏 氏



2022.
11.24
Thu. | 19:00

11月度 月例会
大阪市中央公会堂 大集会場

ゲスト

株式会社サイエンス
取締役会長 青山 恭明 氏





会員交流事業 「大阪JC大運動会」

会員同士の交流をはかるために、ご家族にも参加していただき、ヤンマーフィールド長居にて、大阪JC大運動会を開催しました。10月の心地よい秋晴れの中、50mリレーや、玉入れ、綱引き、借り物競争などで対抗戦を行い、ご家族と共に大いに盛り上がりました。



新年名刺交換会

大阪青年会議所の新年1回目のイベントである、新年名刺交換会は、在籍するメンバーとOBの方々が一堂に会し、交流を深めると共に、新年をお祝いする場です。華やかなだんじり囃子に始まり、理事長からの新年の挨拶やOB諸兄から激励のご挨拶をいただきました。
また、会員でもある金剛山葛木神社神主からご祈祷をいただき、1年間の発展を祈念しました。



OB現役報告会

大阪青年会議所では、現役会員とOB会員が一同に集う交流会を実施しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により2022年度はオンライン配信にて開催し、中間検証としての活動報告を行いました。

OBを代表して山本セネター会長から、力強くもあたたかな激励をいただき、これまで大阪青年会議所を支えてくれたOB諸兄との絆を再確認できました。



会員大会

1年間の集大成事業として、12月8日に会員大会を実施しました。活躍したメンバーを称えるアワードでは、パートナー企業様からも表彰いただき、大阪の未来のために活躍するリーダーを生み出し続ける組織として共感を挙げました。また、2022年度から2023年度へのバトンを引き継ぐ、厳粛な理事長引継ぎセレモニーも行われ、未来への想いを託す機会となりました。会員大会後は、2022年度卒業する99名の会員のための卒業式が行われ、これまでの組織への貢献を称え、残るメンバーから感謝の意を表し、未来へとあたたかな想いを繋ぎました。

また、相川七瀬様のシークレットライブでは、謳歌した青春を思い出しながら大いに盛り上がり、一年間活動し続けてきた自身と向き合える貴重な機会となりました。

大阪のまちに貢献し続けるという理念にご賛同いただける方々と協力関係を築き上げようと、パートナー企業様、賛助企業様を募ってまいりました。これまでの実績を広く伝える活動を通じて、これからも大阪のまちに共感を拡げてまいります。

賛助企業

株式会社ジャパングリエイトグループ

株式会社ジャパングリエイトグループは、当社のパーパスであるJOBFULLな明日の実現のもと、大阪に本社を構え全国で事業を展開しております。

私どもにとっても、創業の地であり特別な地である大阪を、より良くしようと活動が続いている大阪青年会議所様の様々な社会貢献・人材の育成に対して、少しでもお役に立てればという想いから賛助をさせていただきました。

今後も、大阪のまちに暮らす人々の笑顔を増やせるよう、社会貢献活動や次世代リーダーの育成を続けていただくことを願っております。

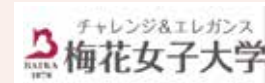


パートナー企業

学校法人梅花女子大学

梅花女子大学では、学生が主体となって「産・官」との交流を行い、そのコラボレーションを通じて、問題・課題を発見し、個人あるいはチームワークによって解決を目指す「問題発見解決セミナー」という従来の講義型ではない、ワークショップ型授業を推進しております。この度の大阪青年会議所とのパートナーシップ締結は、必ずやこの授業の更なる発展をもたらすという大きな期待を寄せております。

御会議所HPにある「未知なる世界への好奇心を絶やすことなく、自尊心を胸に互いの価値観を認め合い、探究心をもって物事の本質を追い求める」というお言葉の、「互い」の一員に本学学生も末長くお仲間入りさせていただきたいと願っております。



パートナー企業

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 事務局長 高井明子

この度は、包括的協力に関する協定締結の機会をいただき、誠にありがとうございます。私たちセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンにとって、1986年の団体設立時の母体の一つである大阪青年会議所は特別な存在です。これまでも多くのご協力をいただきましたが、今回の協定締結により、継続的に社会を変革していくための協働が、さらに力強いものになると考えています。紛争や貧困など子どもたちを取り巻く課題解決のための支援活動の充実、さらには、ビジネス分野での子どもの権利推進にも期待をしています。2030年のSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、一緒に子どもの権利推進のために取り組んでいきましょう。



パートナー企業

ONthe UMEDA

大阪市内で活躍する経営者・個人事業主の方にONthe UMEDAをよりご活用いただける機会が増えるとともに、当施設としても地域との繋がりを人々との繋がりを創出していきたいという想いが一致したためパートナーシップ提携に至りました。

大阪青年会議所さまが掲げる本年度政策方針の「人材育成」において、ONthe UMEDAとして場を提供するとともに、その活動の発信をお手伝いしたいと考えています。またその他コラボ事業の創出や、会員会議の場としてもご活用いただければ幸いです。



大阪青年会議所 WEBマガジン



3月号



4月号



5月号



6月号



7月号



8月号



10月号



11月号



12月号

メンバー向けのWEBマガジンを年間を通じて発行。活動の様子を取り上げコミュニケーション向上につなげました。



大阪青年会議所 公式SNS



Facebookを通じて事業のPRや活動報告を行います。



Instagramでは、事業のチラシや活動写真をメインにアップしています。



Youtubeでは会員の資質向上のための動画配信や、PR映像を配信しています。



JCI OSAKA 2022 ACTIVITY REPORT

大阪青年会議所 2022年の歩み

2022年度、私たち大阪青年会議所は、『世界に誇る強靱都市大阪の実現～「結の心」であたたかな未来をつくろう～』を掲げ、様々な活動に取り組みました。
灯された「結の心」を大切な人に、家族に、仲間に、そして全ての人の未来に繋いでいきましょう。



01 Jan.



新年名刺交換会



JCIセミナー



「モトテラシー-OSAKA」公開討論会



サマーコンファレンス2022



大阪よさこいフェスティバル



「モトテラシー-OSAKA」
Final Presentation



京都会議

04 Apr.



入会式



整肢学院事業

08 Aug.



第34回なにわ淀川花火大会

10 Oct.



全国大会 大分大会



エコシステムプラットフォーム大阪

02 Feb.



広報セミナー

05 May



バズるFUKUSHIMA
「わんぱく相撲大阪市大会」



バズるFUKUSHIMA「キッズ・IN・ターン」



2022年度 理事選挙



24区活性化事業 子ども食堂



公開月例会



JCIアワードセミナー



ASPAC 堺高石大会

07 Jul.



近畿地区大会 高槻大会

09 Sep.



コラボウサイ



会員交流事業 「大阪JC大運動会」



社会人講師事業

03 Mar.



FUN FUN Cooking

06 Jun.



献血にいったんでプロジェクト大阪2022



GYAO
~Global Young Academy Osaka~



TOYP
~The Outstanding Young Persons~

11 Nov.



世界会議 香港大会

12 Dec.



会員大会



理事長 梶本 秀則	直前理事長 村尾 尚太郎	副理事長 石井 孝昌	副理事長 植松 康太	副理事長 島田 直樹
副理事長 山岸 将幸	専務理事 平井 直哉	監 事 森 祐輔	常任理事 委員長 山本 晃大	常任理事 室長 池田 陽一

